

# ワクチン接種、見通し示し混乱解消を

## 日本共産党市議団が緊急の申し入れ

No. 260 2021年5月28日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

札幌市で始まった新型コロナワクチン接種で、予約受付が殺到し、「電話が繋がらない」「接種の見通しが立たない」と多くの市民から、意見や相談が寄せられている問題で、日本共産党札幌市議団は5月26日、3項目の申し入れをおこない、町田隆敏副市長と意見を交わしました。(写真)

### 【日本共産党市議団の緊急要望3項目】

- ・ 各区に集団接種会場を1か所以上設置し、会場及び周辺の感染予防、接種対象者の会場までの移動支援をおこなうこと
- ・ 介護施設入所者、サービス付き高齢者住宅など、高齢者施設の入居者と職員への出張接種を実施すること
- ・ 今後のワクチン供給量と接種の見通し、接種方法のわかりやすい解説と案内などを、一般新聞などを使い、早急に市民に周知すること



### 接種方法を検証し、見直しや強化を/ 市は接種方法変更を検討中

冒頭で、村上市議は、「党にも市民から多くの意見が寄せられています。供給量や具体的行程を示さないのは国の責任、市長はじめ関係部局と改善策について知恵を絞っていききたい」と要請の趣旨を説明。小形市議は、供給見通しと接種受付が60分で締め切りとなった事態の受け止めについて質問しました。

町田副市長は、国がワクチン確保を確約するもとで進めていることと、混乱を招いたことを教訓に接種方法等の変更を検討していると表明したほか、解説や案内を、わかりやすく周知することについて、「非常に認識している」、高齢者施設の出張接種で「工夫しなければいけないとの意識はある」と回答しました。

また、各区の接種会場設置については、一番の障害は「医師の確保」だとし、「現状では不可能」とのべました。一方で副市長は、6月中旬に大規模接種会場を設置することに言及し、国や北大病院などの支援、協力が得られて実現したと説明し、接種の促進には多忙を極める医療機関、医療従事者への支援が欠かせないことも浮き彫りとなりました。

### 老人ホームやサ高住の入居者や従事者に接種早く＝勤医協福祉会と懇談

勤医協福祉会（太田眞智子理事長）と5月20日、ワクチン問題で懇談をおこない、意見交換をおこない、市議団からは、小形かおり幹事長、さとう綾市議が参加しました。(写真)



老人ホーム、サ高住等を運営する福祉会は、施設の入居者には、一人では呼び出しコールを押せないような人がいますが、ワクチンの優先接種からは対象外となっていることを指摘。施設・共同住宅内での感染拡大のおそれや、入所者らがデイ・サービスを利用する場合に付き添う従事者について、ワクチンの早期接種について要望が寄せられました。今後、市への働きかけを強めることで一致しました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。